

法事のすすめ

報恩講



ポスターのデータは
ホームページに掲載しています

10月のある日
お母さんお餅食べるの？
それはお供え用のお餅

明日うちの報恩講って言ったでしょ
ああ そういえば言ってたね

翌月
お寺さんの報恩講のお手伝いに行ってください
今日お寺さんなんだ
いってらっしゃい

その翌月
お別院の報恩講のお参りしてくるからね
はい いってらっしゃい

あれ？
ほうおんこうってこの前も行かなかった？

つなぐがこいぞで生きる

1月のある日
来週からご本山の御正忌報恩講にお参りしに行ってくるから
いない間よろしくね

ご本山…って京都!?
先月も行った
ほうおんこうってなに？ 何回行くの？
親鸞さまのご法事よ 何度でも行くの
先月もね

あなたも一緒に参りする？
え!?
行けばわかるわよ
…
行きたいかも

一緒に参りしてよかったね



聖人のご苦勞を偲び、一人ひとりの安心(信心)について聞かせていただくご縁です。
きっと、新しい日常を生きる私の力になるでしょう。



浄土真宗本願寺派(西本願寺)



報恩講をご縁に



報恩講^{ほうおんこう}は、私たち浄土真宗の門信徒にとって特別な響きをもつ、親鸞聖人のご法事の呼び名です。親鸞聖人のご苦勞を偲びつつ、私たち一人ひとりのご安心^{あんじん} [信心^{しんじん}] について聞かせていただくことのできる大切な場です。

どれだけ世の中が変わろうとも、それぞれの地域に応じ、各家庭、全国のお寺や別院で、代々受け継ぎ大切におつとめしてきました。本願寺でも毎年1月9日から16日まで報恩講をおつとめしています。

私たち一人ひとりのためにつとまっているご法事とも言えるでしょう。

さまざまな環境の変化によって、何の気兼ねもなくみんなと会い、みんなと語り、当たり前だと思っていたこれまでの日常が、実は当たり前ではなかったと気づかされるとき、私たちは、生きていくうえでの人との「つながり」や「ふれあい」の大切さを仏縁の中で感じてきました。

寂しさや孤独を感じる時、阿弥陀さまは「決してひとりじゃないよ、いつもそばにいるよ」と、常に私たちに寄り添い、はたらきかけてくださっています。その阿弥陀さまの願いを、親鸞聖人は私たちにあきらかにしてくださいました。

きっと今日を生きる私の力になるでしょう。

